

問題文

- 9 走者三塁。打者が外野飛球を打ち、リタッチが早かった三塁走者が本塁に達した後に、外野からの送球が悪送球になってボールデッドの個所に入った。三塁走者は、三塁への踏み直しに戻ることは許されない。

回答

(×)

参照

5.09(c)アピールプレイ[注2]・[注4]

[注2] 投手または野手のアピールのための送球がボールデッドの個所に入った場合、それはプレイの企てとみなされ、アピール権は消滅する。したがって、その後、いずれの塁、いずれの走者に対してもアピールは許されない。

[注4] アピールするには、言葉と動作とで、はっきりとその旨を表示しなければならない。なお、ある一つの塁を2人以上の走者が通過した場合、その塁の空過を発見してアピールするには、どの走者に対するアピールであるかを明示しなければならない。たとえば、甲、乙、丙の3人の走者が、三塁を通過し、乙が三塁を踏まなかったときは、乙に対するアピールである旨を明示しなければならないが、もしこのとき甲が空過したと誤って申し出て、審判員に認められなかった場合でも、その塁を通過した走者の数までは、アピールを繰り返して行うことができる。

問題文

- 10 同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない。

回答

(○)

参照

5.10プレーヤーの交代(d) [原注]

同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。投手以外の負傷退場した野手に代わって出場したプレーヤーには、5球を限度としてウォームアップが許される。(投手については5.07bに規定がある)すでに試合から退いているプレーヤーが試合に出場中に起こったプレイは、いずれも有効である。プレーヤーが試合から退いたことを知っていながら再出場したと審判員が判断すれば、審判員は監督を退場させることができる。